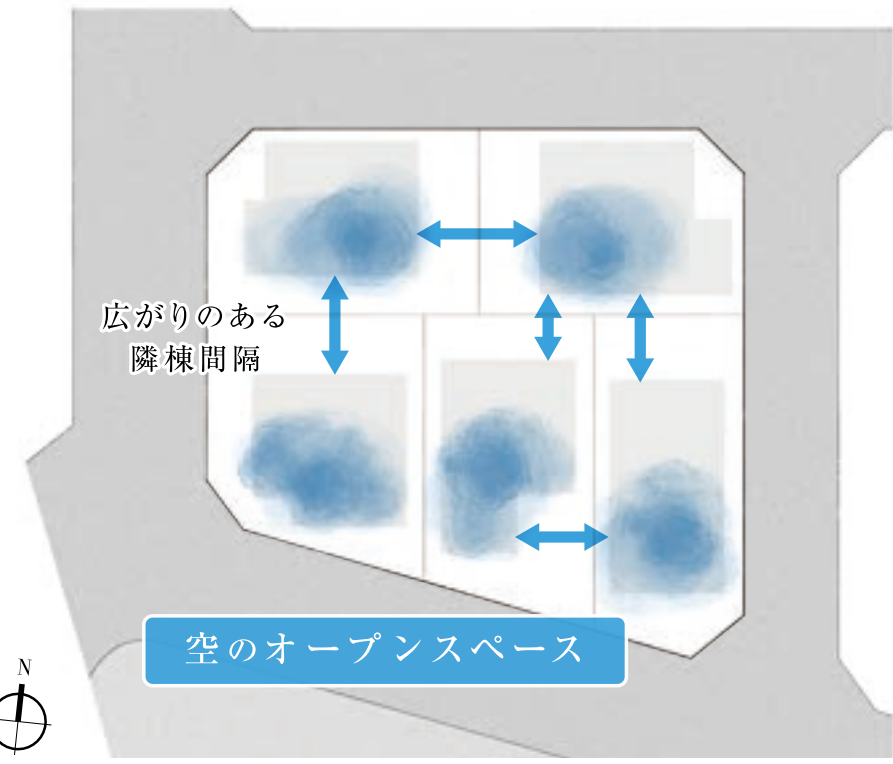




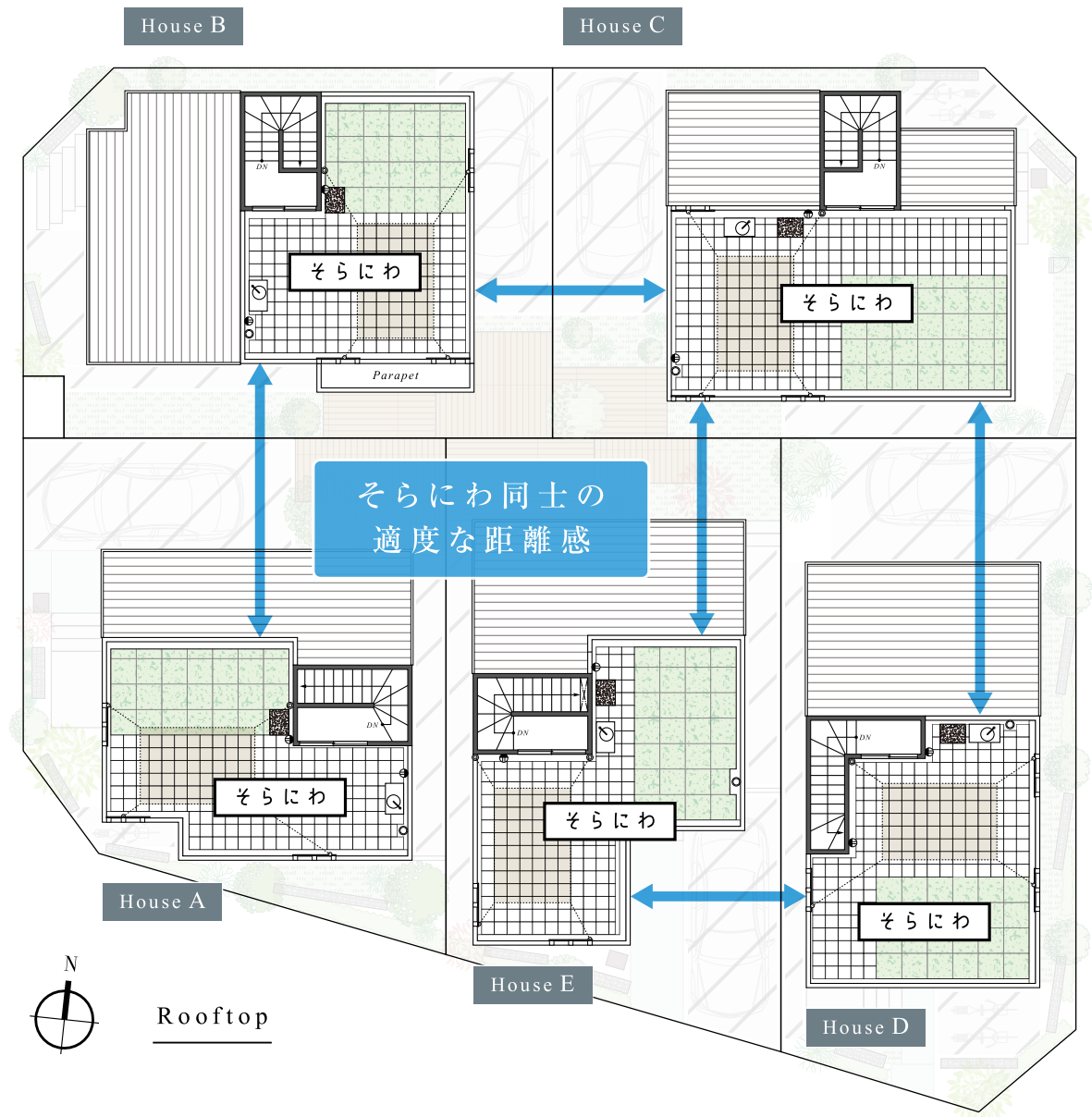
お隣との適度な距離感が生み出す
屋上のプライベートコミュニティ

そらにわ



建物を道路側へ寄せたことにより、各邸の隣棟間隔が広がり適度な距離感が生まれた。南接道の3邸は北側が開放されたことにより、厳しい高度斜線（5M+1:0.6勾配）がかわしやすくなった。それを活かし都市の空を最大限楽しむために、各邸に屋上空間を設けた。適度に離れた屋上空間は、隣家の気配を感じながらも高いプライバシー性が確保されている。

「そらにわ」は広くタープを張ることができるように金具を設置し、夏の強い陽射しでもアウトドアライフが楽しめる空間を作り出している。収納付の水栓台も標準としており、登山用の調理器具を持ち込んで都市の中でのキャンプライフや夜のグランピングなどを楽しむこともできる。低層の住宅街だからこそできる空の開放性を活かし、プライバシー性の高い落ち着いたきのある暮らしを楽しむ日常を提案した。

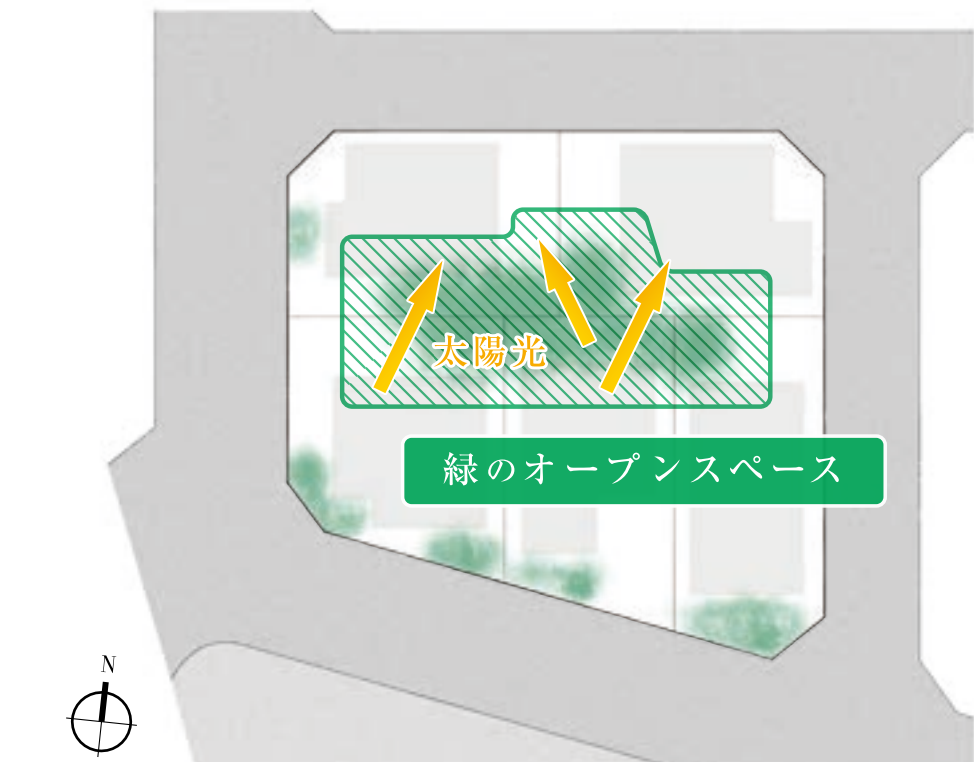


空と緑のまちなか暮らし

地上と屋上を活かし合い暮らす、開放的な暮らしのシーンを描く

都心から1時間圏内、駅から徒歩10分ほどの低層の住宅が建ち並ぶ住宅街である。駅周辺のマンション開発が進んでいるが、現地周辺には学校、病院、公園なども多くあり、大通りから中へ入っていくと既存住宅が密集する地域が広がる整備された緑道が街の中を横断する閑静なエリアである。近年は保育園やデイケア施設等が周辺に建設され、様々な世代の住民が暮らす街の様相を呈しており、代異なる新旧住民のコミュニケーションの促進が今後期待されている。

CLip[s]⁺ クリップスプラス 平和台



高度斜線の影響を考え、南3区画として南北に長い敷地を南に配した。そして今回は四方を道路で囲われた立地環境である。建物を道路側へ寄せて各邸の小庭を街区中央に集めるとともに、高度斜線を避けて建物のボリュームがより高まる建物配置を行い、都市の喧噪から離れた自然なコミュニケーションを促すまとまったオープンスペースとなるように配置を行った。

街区中央のオープンスペースは各邸から中心へ伸びてくるようにウッドデッキを広げて植栽と絡ませ合い、庭の広がりとともに隣家同士や近隣との接点を育むコミュニティゾーン「ふれあいデッキ」を創った。「ふれあいデッキ」に接する各邸のプランは、リビングダイニングだけでなく車庫や各個室など様々な用途から繋がるようにし、普段密に交流しないシーンが新たに生まれるきっかけづくりも促している。



自然な交流を育む
コミュニティゾーン

デッキ
ふれあいDECK